

Ⅱ-1 本人の大切にしていることを尋ねましょう(P6-7)

※人は、信頼できる人に本音を打ち明けます。信頼関係づくりを基本として関わりましょう。

1 本人の大切にしていることを尋ねる意味

ACPの目的は、「人生の最終段階における医療・ケアに対する本人の希望が表現され、尊重される」こと、そして、家族等と共有することです。

その人の価値観によって、希望する内容が異なります。本人がどんなことを大切にしてきたのか、支えにしてきたのかを尋ねることは、今後起こりうる困難な状況への対処方法を考える際に役立ちます。

2 希望を支えるために、症状緩和はある。

終末期にはさまざまな苦痛症状が現れます。苦痛を緩和することは、今では当たり前の治療として提供されています。苦痛緩和の目的は、本人の希望を叶えるため、やりたいこと、やり残したことを支援するためにあるといえるのではないのでしょうか。

そのためには、「機能的予後」の考え方が役に立つでしょう。

3 機能的予後を予測して、本人の希望を叶える支援へとつなげましょう。⁷

機能的予後とは、疾患や治療などの医学的な経過において、機能に関する後遺症がどの程度残るかどうかを予測するものです。

医療者は、生命予後を到達目標にすることが多いですが、本人が知りたいのは、生命予後そのものではありません。どこかに行きたい、話しておきたい、これはしておきたいなどのやりたいことを実行するための時間がどの程度あるか、その機能がいつごろまで残されているかという機能的予後を知りたいのではないのでしょうか。⁽⁷⁾

時間が残されているうちに、本人の希望(やりたいこと)を確認しておく、その希望を叶えるために、医療・ケアチームが何をすればよいのか、方向性が明確になるでしょう。そして、医療・ケアチームに手助けしてもらいたいことを本人に尋ねるのがよいでしょう。

脚注 (7) 森雅紀、森田達也、Advance Care Planning のエビデンス、医学書院、2020